

## 活用事例②

テーマ

### 「学習センター」「情報センター」としての学校図書館活用について

- 委員の所属校における「学習センター」「情報センター」としての学校図書館活用事例（授業における学校図書館の活用）

学校名	新宿区立柏木小学校	単元名（題材名）  ごんぎつね
学 年	第4年	
教科等	国語科	
実施時期	10～11月	

#### 目 標

- ・ キツネに関する本について知り、本を読み進めていく学習に意欲をもつ。
- ・ 「ごんぎつね」とキツネに関する本を読み比べて、考えたことをまとめる。

#### 主な学習活動

##### 【第一次・導入】

- (1) 物語中の「きつね」に関するイメージマップを描く。
- (2) イメージを交流する。
- (3) きつねが出てくる物語のブックトークと読み聞かせ（1冊）を聞く。
- (4) きつねが出てくる物語を並行読書しながら、「ごんぎつね」の学習を進め、最後にキツネレポートを書くという単元全体の見通しをもつ。

##### 【第三次・まとめ】

- (1) 並行読書したキツネに関する本からお気に入りの本を1冊選ぶ。
- (2) 「ごんぎつね」と選んだ本との共通点や相違点等、比較した感想を書く。
- (3) 感想を書いたレポートを文集形式に綴じて読み合い、交流をする。

#### 【学校図書館を活用するポイント】

- ・ 普段の学習に密着・関連した読書活動の充実が図れること。
- ・ 読みたくなった本を、いつでも、すぐ手に取ることができること。

#### ◎学校図書館支援員等との連携

- ・ キツネの本の選書と、単元の導入でのブックトークと読み聞かせを依頼した。

#### ○工夫した点

- ・ 単元を扱う間、休み時間等でも本を手にとれるよう、学級文庫として設置した。

#### ○児童・生徒の様子

- ・ 図書時間を中心に、多くの本に触れていた。休み時間等も読む児童や、地域図書館からリストに載っていない関連本も借りて読む児童も見られた。

#### ○課題

- ・ 並行読書への取り組みでは、個人差が出てしまったので、個に応じた指導に工夫を要する。

#### ○参考図書（別紙）

## 並行読書用図書

- 新美南吉「てぶくろをかいに」
- 新美南吉『ごんぎつねとてぶくろ 新訂』
- 新美南吉『きつね』
- あまんきみこ『きつねのおきゃくさま』
- あまんきみこ『きつねのかみさま』
- あまんきみこ『きつねの写真』
- 宮沢賢治『雪わたり』
- 椋鳩十『きえたキツネ』
- 那須田稔『きつねの花火』（読み聞かせの本）
- 安房直子『風と木の歌』
- 安房直子『きつねの窓』
- わたなべきみえ『ウソツキツネ』
- 岸田衿子『かえってきたきつね』
- 立松和平『キツネとのやくそく』
- 坪田譲治『きつねとぶどう』
- 戸田和代『きつねはらっぱのおじぞうさん』
- 戸田和代『きつねのでんわボックス』
- 高橋宏幸『チロヌップのきつね』
- 大友康夫『きつねのよめとり』
- 茂市久美子『つるばら村の家具屋さん』
- 富安陽子『大雲払いの夜』
- 松岡享子『子どもに語るアジアの昔話 1』
- もりやまみやこ『きいろいばけつ』
- 佐藤さとる『きつね三吉』
- いわむらかずお『てっぺんの湖』
- いわむらかずお『今野つね』
- 小沢正『かみそりぎつね』
- 森はな『こんこんさまにさしあげそうろう』
- 松居スーザン『冬のおはなし』
- スーザン・バーレイ『わすれられないおくりもの』
- ビアトリクス・ポタ『キツネどんのおはなし』
- カトリーン・シェー『ちょっとまで、きつねさん！』
- イソップ『イソップ童話 改訂版』
- グリム『子どもに語るグリムの昔話』
- ウクライナ民話『てぶくろ』
- ロシア民話『おだんごぱん』
- ロシアの昔話『きつねとうさぎ』